

コード PP-6~PP-21

書籍概要

標準 ポピュラー音楽理論 改訂新版
(林知行、シンコーミュージック・エンターテイメント)

- ・要するに、13年くらいDTMやってるのに、音楽理論ってちゃんと読んだことなかったな、と思い。
- ・↑と同じことを5年くらい前にも思ってたのに、買っただけ買って放置していたので、今回の機会に掘り出した。
- ・あと、ここで前知識を仕入れて(定着すれば、だが)こまごま先「ポップミュージックの方法」を読みたいなという気持ち
- ・ここで何か学んだからといって今のスタンスを変えるつもりもないが、外部の言葉でそれをどう言うのかは知っておいたほうがいいな、というのもあったので。

前知識として「音楽理論をちゃんと数的に議論展開しようとすると、離散数学の知識が必須になる」ことは把握しているが、残念ながら私はんでダメなので出てきたら適当に流すと思っ。

コードネーム

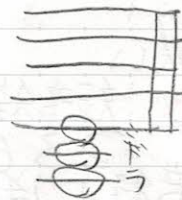
コードネーム……ポピュラー音楽の特徴

Xジャー トライアド
(長三和音)

マイナー トライアド
(短三和音)



ルート(和音の一番下)から
4/7半音



ルートから
3/7半音

*コードネームは、ルート音の英語表記(C, D, … G, A, B) + 重ね方の略称(Cmとかdimとか)で表す

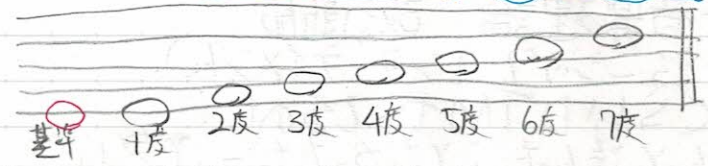
C, A, …

Cm, Am, …

度(音程の概念、後述)でいうと、Xジャーもマイナーもトライアドは「ルート」「その3度上」「ルートの5度上」の組み合わせ

(※3度がどう3度かでXジャー/マイナーが変わる)

音程：2つの音の音律的距離(五線譜上の差)を示したもの



基準と同じ音高を1度として、
上に行けばいくほど
数字が増える。

五線譜では臨時記号で実際の高さは変わるので、
実際の半音数と合わせて「長〇度」「短〇度」「増〇度」「減〇度」と言ったりする

度数	減 (bb)	短 (b)	完全	長 (#)	増 (#)
1	—	—	0	—	1
2	0	1	—	2	3
3	2	3	—	4	5
4	4	—	5	—	6
5	6	—	7	—	8
6	7	8	—	9	10
7	9	10	—	11	12
8	11	—	12	—	13
9	12	13	—	14	15

← 表内の数値は
半音数の差。
"—"のところは
ふつうないもの。

完全音程：振動数が整数比倍になる音程。
1, 4, 5, 8 に存在 (完全8度が「オクターブ」=12半音)

- 増音程：半音広い
- 減音程：半音狭い

長音程と短音程：短音程は長音程より半音狭い

- 増音程：長音程より半音広い
- 減音程：短音程より半音狭い

① ここでの「広い狭い」は
ルートから2音め12対しての
半音距離のこと?

・ハーモニーとコード

ハーモニーは和声、コードは和音
ハーモニーが声部と声部の重ね方、そのハーモニー中の音の並びがコード

増三和音と減三和音

オクターブ・トライアド (増三和音) $C_{aug} / C^{(b5)}$ (ルート/4/8半音)
 マイナー・トライアド (長三和音) C (ルート/4/7半音)
 マイナー・トライアド (短三和音) C_m (ルート/3/7半音)
 ディミニッシュ・トライアド (減三和音) $C_{dim} / C^{(b5)}$ (ルート/3/6半音)

長短三和音上のシックスやセブンス

トライアドにもう1個音を足すと → コードネームの右に6や7や $\Delta 7$ を足す
これらが足した和音を **付加和音** といふ

付加和音の記号はルートからの音程を表す

6は6度上のシックス 7は短7度上のセブンス、 $\Delta 7$ は長7度上のセブンス (マジャー・セブンス)

C_6 C_7

増減三和音上のセブンス

$C_7^{(b9)}$ $C_7^{(\#9)}$ C_m7 $C_{dim}7 (C_{dim})$

*セブンスのときはaug表記はしない (練習?)

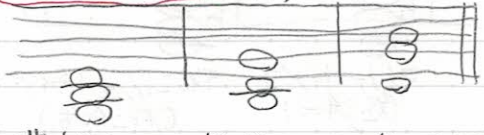
等音程和音

オクターブ・トライアドは長3度で、ディミニッシュ・セブンスは短3度で、
1オクターブを等分したような形となる → **等音程和音**
等音程和音はルートを順に変更したときに響きが似る
転回を行うと心地悪くなくつなくこしげてる

転回形のオンコードや分数表示

転回: 2音間の上下関係やコードの配置を変化させること

コードの転回形: ルート以外の構成音をベースに配置した状態



基本形, 第1転回形, 第2転回形
G, G^{1st} (G/B), G^{2nd} (G/D)

ベース(最低音)がルートのとも、
on N または /N のように書いて、
N が最低音であることを表す。

後述の omit/add をじて "コード構造が変わるとき(←?)
それも分数コードで書くことができる

9以上の数字で示したテンションノート

短9度は ^b9、増9度は [#]9 ... などのようにしてコードネームに足す。

add

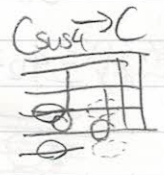
add に続く音名や音程を付加する

sus

掛留: コード進行上で 声部の解決が遅れた状態

その処理を示すためにコードネームに susN を付加する
(Nは音程)

説明がつかないか
たぶんテンションを根元



Omit

omit N で 音程 N の音と和音から抜く

ダイグリーによるコード表記

音名	ダイグリー	音名	ダイグリー
C	C: I	Cm	Cm: Im
Dm	II _m	D ^{b5} m	II _m
Em	III _m	E ^b aug	III ^{aug}
F	IV	Fm	IV _m
G	V	G	V
A _m	VI _m	A ^b	VI _m
B _m	VII _m	B _m	VII _m ^{b5}

ようするに音名の下から
ローマ字で I~VII に
置もかえ。

ただし **スケール** を明示した上で
その上にどうコードが並ぶか?
を記述する。
(後の章で説明出来るらしい。)